

北秋田・鷹巣小 地元食材の牛丼 感謝込めペロリ



松尾牛と新米あきたこまちの牛丼を頬張る鷹巣小の児童

北秋田市の鷹巣小学校(湊貞宗校長、294人)で22日、市内の2事業者が無償提供した地元産の牛肉と新米を使った給食が提供された。子どもたちはメニューの牛丼を味わい、生産農家らに感謝の意を伝えた。

提供したのは「松尾牛」のブランド名で肉用牛などの生産販売と飲食店などを手がける松尾(松葉町、松尾吉高社長)と、JAたかのす(大町、小笠原隆志組合長)。両者とも地域貢献活動の一環で、今回が初めての企画。牛肉92キ、新米170キを提供し、市内の小中学校と義務教育学校、特別支援学校計11校で給食に使われた。

このうち、鷹巣小6年生の47人は、松尾とJAたかのすの担当者、市教育委員会の幹部らと一緒に給食を味わった。食べる前には全員で「ありがとうございます」と感謝を伝えた。牛丼は、おかわりのために行列ができるほどの人気だった。

片岡悠真さんは「松尾牛はやわらかくて食べやすく、新米は甘くてモチモチ。おいしかった」と話した。(小松田直嗣)

(令和7年10月25日(土)秋田魁新聞から一部抜粋)